

天守閣木造復元関連議案への反対討論 藤井ひろき議員(7月4日)

名古屋城の在り方そのものから見直し 市民の声をじっくり聞き心を込めた論議を

7月4日の6月議会最終日に市長が提案した補正予算案などの議案や人事案など18件の採決が行われ、日本共産党は天守閣木造復元に関連した4議案と、再開発を促進する規制緩和に関する条例案1件の計5件に反対し、13議案に賛成しました。

天守閣木造復元議案についての採決に先立ち、藤井ひろき議員が反対討論を行いました。藤井議員は、市民の合意もないままに木造復元を進めることは許されないことや、収支問題、石垣保全などについて指摘し、じっくり緒意見を聞くべきだと討論しました。

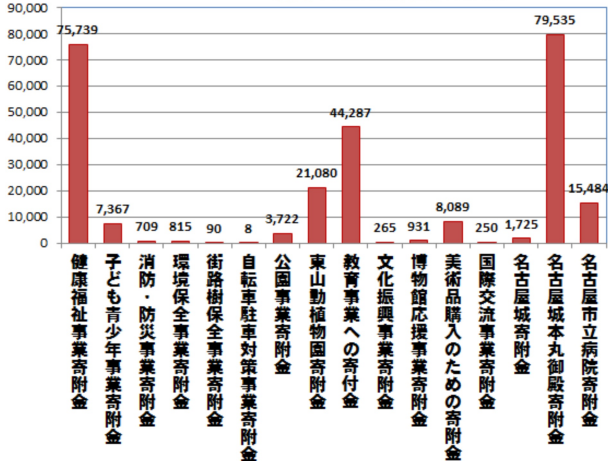
以下概要を紹介します。

市民合意のないまま寄付を先行

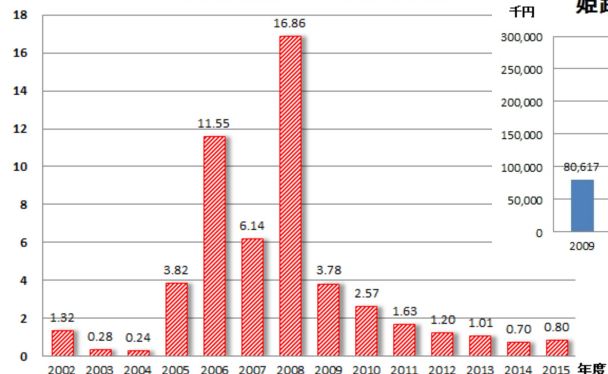
反対する理由は、第一に市民合意が無いなか、木造復元ありきで寄附金を募ることは問題だからです。

4月の市長選挙におけるマスコミの世論調査でも、2022年完成の天守閣木造復元案に対し、6割から7割の市民が賛同していません。

ふるさと納税などへのモデルメニューへの寄附金 (2015年度は総額2億6千万円。)

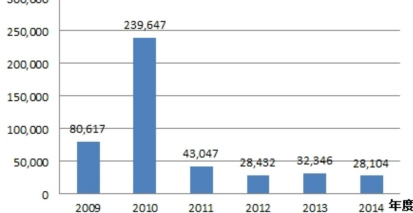


本丸御殿への寄附の推移



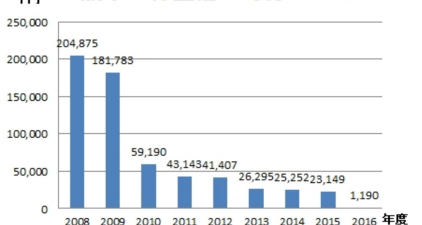
ふるさと納税などで呼びかけられている名古屋市の寄付のモデルメニューごとの寄付額 (2015年度)。

姫路城大天守保存修理の寄附金 (総額4億200万円)

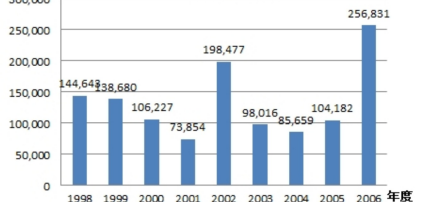


本丸御殿や姫路城大天守修理、熊本城本丸御殿などの寄附金の集まり具合

熊本全体整備の寄附金 (総額6億円)



熊本城本丸御殿整備の寄附金 (総額12億円)



税金投入の危険性が大きい

第二に、収支計画において依然として税金投入の恐れがあるからです。

名古屋城天守閣木造復元に向けた調査では、木造復元した場合の入場者見込み及び民間活力の導入等の調査を行いますが、入場者見込み数が、現在の収支計画にある復元後50年間近く、年間平均366万人を下回っても、「民間活力の導入策」で入場者数を確保するというだけで、税金投入を行わないという根拠にはなりません。



ムリな日程が石垣保存を軽んじる

第三に上物である天守閣の木造復元を急ぐあまり、石垣保存を軽んじることは認められないからです。

505億円もの巨費を注いで、2022年12月までの短期間で巨大事業を行う、この計画自体に無理があり、文化財である「本物」の石垣について、調査の必要性、保存方法などについて、有識者会議で論議を呼んでいます。

市民の声をじっくり聴け

天守閣木造復元を急ぐのではなく、耐震化も含めて木造復元構想を見直し、名古屋城のあり方について、多くの市民から意見を聞く場を設け、じっくりと心をこめた論議をしていくことを求めます。